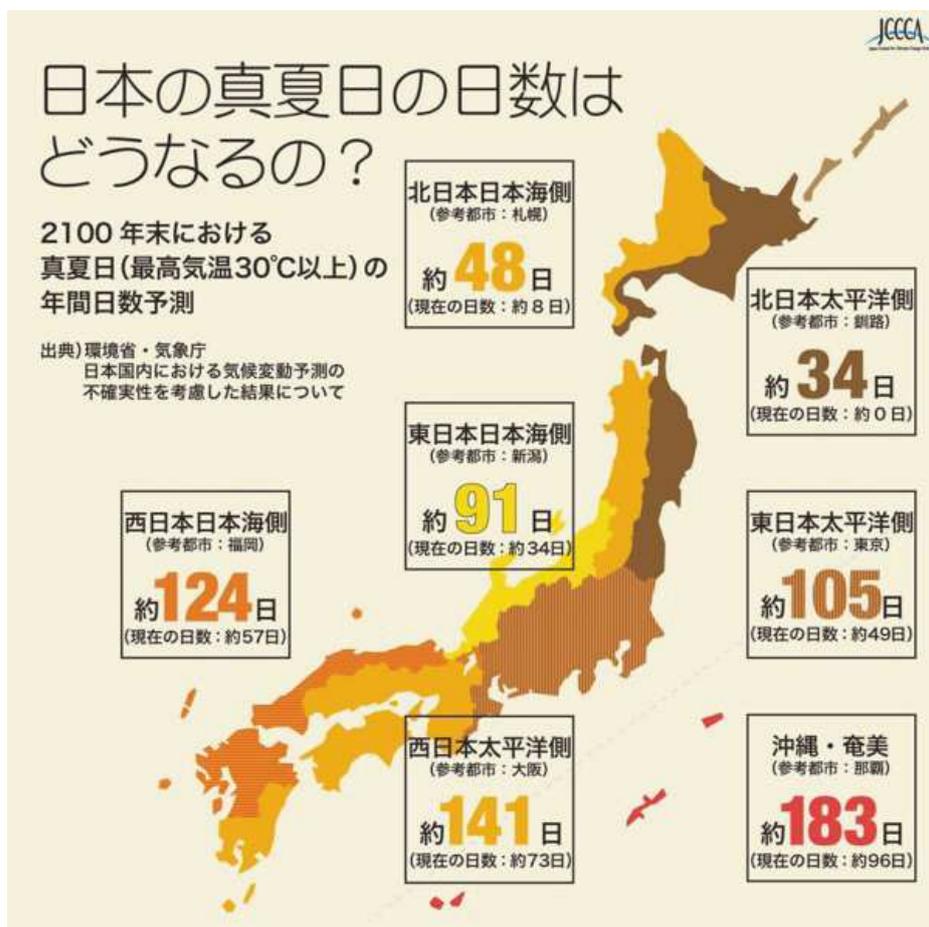


# 地球環境問題を考える

## —地質学と人類の未来—

地球温暖化による、熱波や旱魃、洪水、台風・ハリケーンなどの気象災害や大規模山火事などのニュースに接することが日常となってきた。地球温暖化の現状と今後の予測、人類の活動による地質学的刻印による新たな地質時代、人新世の提唱などについて紹介する。



講 師 / 宮下純夫 (北海道総合地質学研究中心 理事長)

北海道江別市出身、北海道大学理学部卒業、理学博士、新潟大学名誉教授、元日本地質学会会長。  
北海道をはじめ世界中の現在及び過去の海洋地殻の研究に従事

日 時 / 2023年12月 2 日(土) 13:30-15:30 (13:15 開場)

会 場 / かでる 2.7 北海道立道民活動センター(札幌市中央区北2条西7丁目1030会議室)

参加費 / 1,000 円 (会員・高校生は半額) 参加定員 55 名

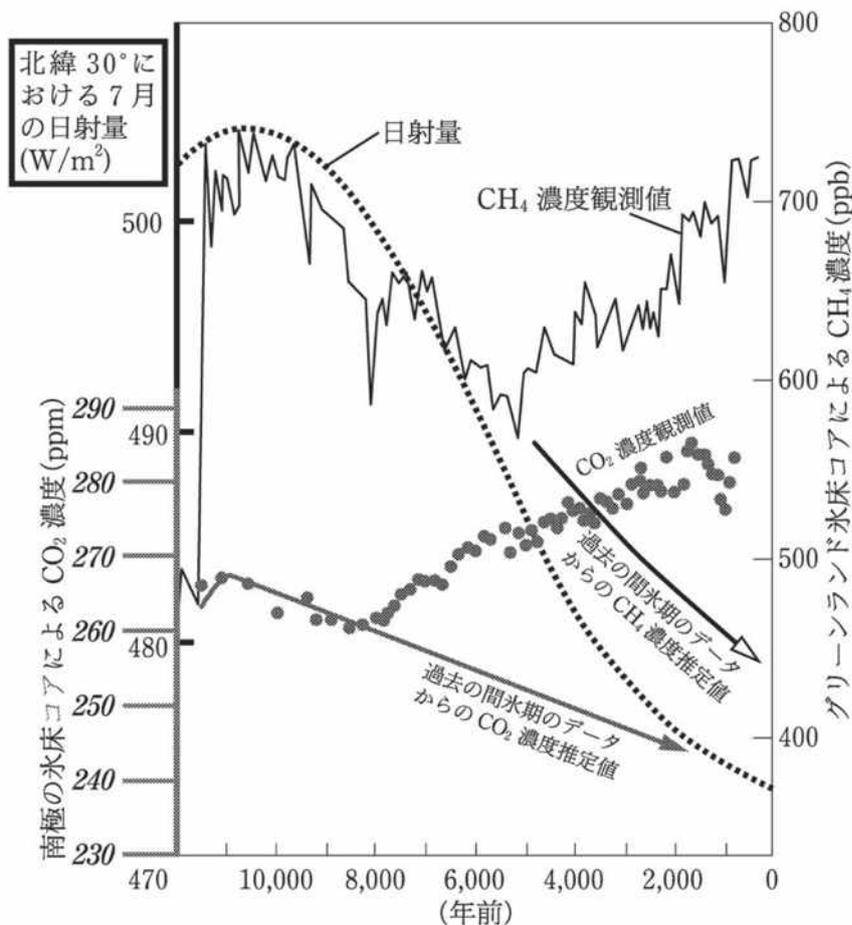
申込期限 / 2023年11月 30 日(参加定員まで余裕があれば前日まで受け付けます)

参加申込・問合せ先 / E-Mail: office@hrcg.jp Tel: 080-5830-2016

主 催 / NPO法人 北海道総合地質学研究中心 (HRCG) (<http://www.hrcg.jp/>)

## 講義の概要

地球温暖化に伴う熱波や旱魃、洪水、台風・ハリケーンなどの気象災害や大規模森林火災などのニュースに接することが日常となってきた。2023年の夏は特に異常な熱波に世界中が襲われた。同時期の南半球でも冬から春にかけての季節にもかかわらず、熱波に見舞われた。我々が今過ごしている地質年代は第四紀と呼ばれているが、その大部分は氷河期で、我々は氷河期の中の温暖な間氷期に生きている。現在進行しつつある地球温暖化と第四紀の気候サイクルとの関係についても解説する。気候変動は地球環境問題の重要な一部を構成しているが、マイクロプラスチック問題など、新たな汎地球的環境汚染も進行しつつある。本講座では、人類の活動による地質学的刻印による新たな地質時代、人新世の提唱についても解説する。



## 講演者のプロフィール

宮下純夫 (みやした すみお)

北海道総合地質学研究センター理事長, 新潟大学名誉教授, 元日本地質学会長

## 略歴

北海道江別市生まれ

1970年 北海道大学理学部地質鉱物学科卒業, 1979年 同大学院博士課程修了

1984年 新潟大学理学部・自然科学研究科にて教育・研究に従事, 北海道や太平洋, インド洋, オマーンを中心とした世界各地の過去及び現在の海洋地殻の研究に取り組む。

2018年, 故郷北海道へUターン, 江別市在住

